



# 臥龍せんせいの風



蓬 恵碩

## 臥龍せんせいと風

---

臥龍せんせいがまだその名前と呼ばれていない時のことです。

まだ小さな頃でした。

おさなごころに蝶の夢を聞きました。

夢で蝶になった人のお話でした。

毛虫の頃はうじうじと歩いていましたが、蝶になると見事な白い蝶になりましたとさ。

白い蝶は羽をぱたぱたと自由自在に操り、風を作るのです。

風はさまよい白い蝶の夢を人びとに送ります。

みなみな、それに気付くわけではありません。

それでじょじょに大きくなって人びとや世界を変えるのです。

おさなごのころに風のたよりが届くと、ああ、友達が来た、そう思ったのでした。

それが臥龍せんせいと風の初めての対話でした。

## 風の便り一翹

---

ぼくはかぜ

ちいさいかぜだよ

ぼくのささやくこえをきいておくれ

このよのかぜはつめたいというけれど

たびしてごらん ほら、ぼくと

いつでもどこでもぼくはいるよ

さがして さがして

ゆめみてごらん

ちょうになるゆめ

かぜのたよりをおくってごらん

きみのなかにもかぜがある

くちをおおきくひらいて

うたってごらん

ら ら ら ら らっ

ららららららららら

らっらっらっ

## いねむり小僧からのうたごえ

---

ら ら らーっ

ちえっ うるさいなっておかあさんにいわれた

ぼくはうたうよりも

たくさんほんをよんで

いねむりするのがすきなんだ

こちょうのゆめをみたものさ

ぼくがちょうだったのか

ちょうはゆめだったのか

いろんなゆめをぼくはみるよ

はなのさくゆめさ

ひとのさくゆめさ

はなのちるゆめさ

ひとのちるゆめさ

はかないことおおきになみだして

いしにきざむなまえのほまれ

それよりも

かぜのたよりにおかあさんのほんしんをそっとおしえて

おかあさんはぼくをどうおもってる

いねむりこそうかなあ

かぜ かぜ かぜよ

なぜかぜか

ぼくたちはいったいなにもものなのか

ただかぜのようにみちをさまようものか

なあ かぜよ

## 風の便り二翹

---

とどいた とどいた かえってきたぞ

いねむりこぞうのたより

かぜのおときくひとはかぜにみちびかれるよ

みみをすまして

そとにでてごらん

ひろいところで

ひとさしゆびをなめてさ

かぜをはかごらん

ぼくはどこからきた？

やまから？

うみから？

かわぞいに？

ぼくはどこからきた？

おしえておくれ

あなたのいばしょ どんなばしょ

やまなみきれい？

かわはおおきい？

さかみちのとちゅう？

きょうのかぜはとどいていますか？

とりいそぎ ぴゅうぴゅう

## いねむり小僧の口ずさみ

---

おうおう きたな

やまはきたに

かわはひがしに

かぜはびふうじゃ

ぼくのいるばしょ そりゃいえぬ

きみのいばしょはしれとるぞ

ここをふきぬけて ふきぬけて どこまでいくのか

ふきぬけながら むねのあたりになにかをのこしていく

きみのいばしょはしれとるぞ

むねのあたりがほんのりうづく

風の便り三翹

---

ruraru